

第3回大磯町新庁舎整備基本構想等検討委員会結果概要

○日 時 令和3年8月3日（火）午後2時～午後3時30分

○場 所 大磯町図書館 大会議室

○出席者【委員長】小谷委員（学識経験者）、【副委員長】海老澤委員（学識経験者）

（委員）藤江委員（公募町民）、

小泉委員（区長連絡協議会会長）、

鈴木委員（民生委員児童委員協議会会長）、

岡崎委員（中南信用金庫常務理事・総務部長）、

浪貝委員（神奈川県平塚土木事務所計画建築部長）、

山口委員（まちづくり団体【大磯ガーデニング倶楽部】）

○事務局 政策総務部長、総務課長、総務課担当主幹、総務課担当職員

（説明員）株式会社 梓設計

○傍聴者 なし（緊急事態宣言を受けて会議の公開（傍聴）は行わないこととした）

○議題 （1）大磯町新庁舎整備基本構想の策定に向けた取組み状況について

○会議記録

議題に入る前に、第2回の検討委員会以降における、新庁舎整備事業の経過について、参考資料に基づき、事務局から説明を行った。

【委員】

参考資料のプロポーザル評価項目について、120点満点とあるが、減点の理由は教えてもらえるのか。

【事務局】

参考資料の裏面に、評価項目がそれぞれ書かれている。参加表明書は、事務所の規模や実績に基づいたものが評価点となり、企画提案書については、選定委員会を開催し、11名の委員が事前に行った書類審査や当日のプレゼンテーション、質疑応答の中で採点を行った結果を平均したもので、参加表明書の点数と企画提案書の点数を合計したものが評価点となる。それぞれの委員が評価をした結果である。

1. 議事

（1）大磯町新庁舎整備基本構想の策定に向けた取組み状況について

- ・ 基本構想策定業務委託の進捗状況について

資料1-1、資料1-2に基づき、新庁舎整備基本構想策定スケジュールの進捗状況と津波シミュレーション概要について、事務局から説明を行った。

【委員】

現在の土地の海拔は何メートルありますか。

【事務局】

現庁舎の1階のフロアレベルが14.1mである。

【委員】

最大津波高さが17.1mなら、海拔が17.1mぐらいの高さに新庁舎を建ててもらいたい。それができなければ、約3メートル足りないが、それを防ぐ方法か考え方を示してもらいたい。町民からすると、海に近い、海拔は何メートルかということはきつと指摘される。

【委員長】

シミュレーションの結果はこれから出てくるが、今の委員の発言に関する対応も検討して策定されるということで良いか。基本構想のコンセプトのひとつに災害対策も入ってくると思うので、今後進めていく中で、資料を委員の皆様提示してもらいたい。

【説明員】

補足になるが、17.1mは沖合における一番高いところでの数値であり、県のシミュレーションでは陸地になるともう少し下がる結果となっている。これに関しては現在詳細のシミュレーションを行っているので今後資料で示していく。

【委員】

町民に分かりやすいように、説明してもらいたい。今の庁舎では危険だから建替えるので、そこがずれないように、安全で対策をとっていると示してもらいたい。

【委員】

津波タワーを作っているときに19mという津波の想定だったと思うが。場所によって違うのか。

【事務局】

県が想定している最大の津波高さは、17.1mである。

【副委員長】

現在は基本構想で、設計は先だと思うが、津波シミュレーションにある「簡易ボリュームモデルを作成する」とあるのは、どの程度まで想定してか。例えば建物のある程度の形まで想定してピロティ状にして波が抜けるようにとか、海に対して垂直に津波の被害を抑えるようにするとか具体的なシミュレーションなのか、簡易な箱状で済みますのか、どういうイメージか。

【説明員】

具体的なことはこれから町と協議になる。建物の横幅が広いとか、波に対して細長いなど、形によって変わってくるが、敷地に建てられる建物のボリュームとなると、ある程度決まってくるので、何パターンか提示して、比較できるものが用意できればと思っている。

【委員】

基本構想策定のスケジュールについて、法的条件等の整備を8月末までに終わらせ

て、その後2か月を掛けて課題の検討を行うとなっている。一方で、規模算定・整理など、ボリュームの決定については、課題の検討と同じ期間で見込まれている。ボリュームを決めながら、課題も合わせ、同時に進めていく考え方だと思うが、高さ規制や日影は、建物の形状が決まらなないと個別具体の検討ができない。スケジュールが同じで大丈夫か。法的な課題の中で、適正規模を考え直さなければならないケースも想定されるので、同じことに少し違和感がある。スケジュールの余裕度がどれくらいか分からないが、考えを説明してほしい。

【事務局】

法的な部分については、町の都市計画課、県の関係部署に相談をさせてもらっているが、ある程度の施設規模等が見えてこない、なかなか詳細な相談もできず、法的規制の内容によっても変わってくるので、スケジュールを踏まえ進めていきたい。

【委員】

事業スキームとは具体的にどういったことか。

【説明員】

一般的な入札やPFI、ECI方式などいろいろな手法があり、そういった事例や全体のスケジュール感をまとめて示している。どれが最適かは、基本構想業務の中である程度絞っていき、全体の考え方を説明し、比較検討していく。

【事務局】

庁内検討会の報告書の中でも事業手法を比較検討した内容があり、再度検証していく。

【委員長】

検討委員会のスケジュールは、今年度3回の予定から4回になっている。第4回は書面開催となっているが、委員の皆さんは承諾ということで構わないか。素案の前に、書面でも皆様にご確認いただいた方がいいのでは、ということだが、よろしいでしょうか。

(委員の了承を得る)

これから意見交換会が予定されているが、できたら若い人、庁舎を建てると50年近く使用することとなる。社会も大きく変わっている段階にあるので、若い世代の人たちも集めるようにしていただきたい。

オフィス環境部会にも若い職員を取込んでいただきたい。職員アンケートについて、後で説明があるが、ジェネレーションギャップが出てくると思うので、若い世代の人達を取込んでいただきたい。

- ・ 職員アンケート調査の実施結果について

資料2に基づき、実施結果について事務局から報告を行った。

- ・ 町民アンケート調査の実施状況等について

資料3、資料4に基づき、実施状況と新庁舎整備に関する町民への周知について事務局から報告を行った。

【委員】

職員アンケートの結果を読んで、庁舎を50年ぐらい使うと考えたときに、狭い範囲で考えている。20年、30年先どうなるか分からないが、先進の庁舎の真似でも古い。もっと広く、世界やいろいろなところから情報を集めて、新しい発想で構想してもらいたい。それと、大磯では皆が集える場所がない。これは他の市町との大きな違いで、大磯の欠点で課題である。それも踏まえて新庁舎にそういった機能を併せてもらいたい。

【委員】

現庁舎で改善が必要と思うことで、空調の問題とトイレの改善があるが、トイレは新しくなれば快適になり、バリアフリーにもなって良いと思うが、空調の問題は、平塚にいたときに庁舎が新しくなったが、1階と2階以上の室温度差がひどくあり、1階フロアの中でも場所によって空調の効きが悪いところがあったので、気を付けてほしい。

【委員】

アンケートを取っただけにならないよう、真摯な対応をお願いしたい。新庁舎を皆で建てるという意識をまとめるためには、そこが大事である。

【副委員長】

職員アンケートの7で、オープンフロアは空間の問題で、フリーアドレスは使い方の問題で、違うことかと思うが、1つに同じように聞いている。その2つは同じことではないような気がしたので、回答した場合、どちらをメインとして答えたのか。フリーアドレスは、今の役場の仕事をみていると、極端な感じがする。オープンフロアは今の庁舎でもオープンフロアという気がするので、「はい」と答えた41%はどちらを求めて回答しているのか気になった。フリーアドレスは誰が提案して、今回の庁舎の計画で導入しようとしているのかも含めて教えていただきたい。

【事務局】

アンケートの中では、オープンフロア、フリーアドレスどちらかは把握できない。今後オフィス部会の中で、内容も含め検証していきたい。

【副委員長】

フリーアドレスは使い方の話だと思うので、最初からフリーアドレスと決めなくても、どちらでも使えるように建設はできるか。

【説明員】

これから働き方改革を含め、フリーアドレスやテレワークなど、スペースの問題に結びつくものを調べたいと考えている。弊社でもフリーアドレスを導入したが、職員人数分の席を設けなくても十分機能できる。執務スペースをもう少しコンパクトにで

できれば、そのスペースを町の人が集まるスペースや共用スペースに使う提案ができる。具体的な事例を職員と共有しながら検討していきたい。

【副委員長】

実際のところ、役場のような機能だとセキュリティの問題や住民サービスで窓口や課がはっきりしないと分かりづらいなど、そもそもフリーアドレスが役場になじむのか。

【説明員】

事例的にも、庁舎全体で行っているところは少なく、一部の部署での試みが増えている状況である。扱う情報や資料が膨大であること、セキュリティの問題もあるため、建物の設計と同時にデジタル化を検討していく必要がある。各部署の考えを聞いて進めていけば実現は可能かと思う。

【副委員長】

フリーアドレスは今回梓設計さんの提案として入っているのか。

【事務局】

提案としていただいたが、全体的な面積が予算上確保できない場合など、フリーアドレスの考え方を入れていかないと、働きやすい執務空間を確保できないことから導入を検討していく必要があると考えている。役場全体でなくても、可能な部署があれば取り入れたいと思っており、こういう考え方もあるということを職員に知ってもらう目的で質問に含めたもの。

【委員】

国府支所との関係性は。今までどおりか。

【事務局】

本庁舎以外の公共施設の取組みについては、公共施設等総合管理計画を策定しており、支所については、個別施設計画により具体的な対策を定めていく予定としている。

【委員】

職員アンケート³の「大磯町の特色ある新庁舎づくりとして特に重視すべきものは何ですか。」の中で1番が「快適性」、2番が「防災機能」はもちろん重要で良く解る。ただ、下から2番目ではあるが「シンボル性」の大磯らしさも重視すべきだと思う。今後、明治記念大磯邸園が正式にオープンし、旧吉田邸や城山公園もある。近代からの大磯町の顔が誰でもわかるような表現方法で新庁舎の基本構想に盛り込んで欲しい。そして最下位が「情報発信」である。これこそ重視すべきで、できれば新庁舎自体が観光情報やまちの魅力を具体的に表現し、発信できる建造物として、基本構想を創り上げていただきたい。

【委員長】

大磯らしさという部分は、町民アンケートを見ると出てくるかもしれない。職員アンケートでは、この中で優先順位を考えた結果が出ている。

【事務局】

町の魅力として質問 13 も大磯らしさにつながる。ご指摘のあった内容は、こちらでも反映できるかと思う。

【委員長】

デザインのディレクション（方向）の部分でも大磯らしさを構想の中で少し触れておいてもらいたい。

【委員】

職員はあまり外観を見ていないと思う。店舗の建替えてよく意見が出るのは、収納・書庫・文書保存についてスペースを取ってくれと非常に言われた。あとは動線。カウンターの外に出るときに扉が遠いとか、お客様のところにすぐに行けない動線はやめてくれと言われる。職員は異動があるので、誰が使っても同じように分かるよう作ってもらうと良いと職員の見方としては思う。平塚市役所は工事の関係で正面に臨時トイレを設置していたが、ああいったものは好ましくないと思う。

【委員】

民生委員の関係で会議をしたいときに会議室が無い。本庁舎の中に町民が使える会議室、役場に保健センターの機能も入るので、高齢者など大して用が無くても気軽に行ける、交流のふれあいの場、そういう機能を持たせてほしい。

行政は縦割りだと感じる。相談に行っても、自分のところは分かっているけど他は知らないということのないよう、職員間で情報共有できる感覚を持ってもらいたく、それが改善できるような機能を持たせてもらいたい。

【委員長】

後半については、どこの自治体でも変わっていく方向を模索しているところだと思う。機能面、スペースの問題と重なっていけばいいと思う。

一点目の部分だが、質問 4 の「町民が気軽に立ち寄り、相談・交流のしやすい空間」が思ったより少ないと思った。これは職員の選んだ優先順位なので、この結果になったが、今後、町民アンケートと比較していけば良いと思う。最近、コロナでコミュニケーションなんてリアルに要らないのではという意見もあるが、そのコミュニティの希薄化が社会的に問題になっていて、リアルのコミュニケーションは意外と今求められている。やり方はいろいろあるが、限られた地域のコミュニティで顔を合わせることはとても大事でニーズがあると思う。そのあたりは町民アンケートでの結果を見ていただきたい。

質問 2 のワークショップに参加したいという 22%はどのような人か。若い人ですか。

【事務局】

匿名アンケートなので個人は分からないが、若い職員の割合が多かった。あまり部や課に囚われず、参加意向のある若い職員に対して機会をつくっていききたい。

【委員】

私の職場では 3 年前にオフィス改革を行ったが、その際に来客や打合せスペースな

ど、必要な空間をどう確保するかが課題だった。オフィス改革を実施している企業等の先進事例を調べてみると、某メーカーでは職員一人当たりの文書量を2メートル以下、某区役所では5メートル程度に抑えるなど保有している文書を削減することで必要空間を確保していたことから、これらを参考に保有する文書量を4割削減して、来客や打合せスペースを確保したところである。

庁舎の建替えにおいて、法規制や限られた予算で床面積を無限に確保する訳にもいかない中で、新たな必要空間を生み出す手法としては文書量の削減が有効と思われるので、今後オフィス環境部会の中で議論されると思うが、そういった実績を調査し、必要な空間を確保していただきたい。

【委員】

町民のためのコミュニケーションの空間があるといい。

【委員長】

職員アンケートは、当然職場なので機能性を重視しているのは当たり前で、一方で町民は利用する側として、また違ったニーズがあると思う。マーケティングでは、お客様の意見を全て反映する時代は既に終わっていて、ユーザー、作る側、サービスを提供する側の思いや、その人たちの使い勝手を入れていくインナーマーケティングと言われるような、双方のギャップとか、合致点をうまく調整してサービスを作るのが当たり前になっている。そういったことを含めて基本構想の中に生かしていただければより良いものができると思う。引き続き、皆様のご意見をいただきながら進めていければと思う。

2. その他

事務局から事務連絡を行った。

以上